

## 柔道との出会い

－だれにでもいいところはある－

- 1 学年 第6学年〔中期〕  
 2 主題名 個性伸長〔1―(6)〕  
 3 ねらい  
 「まさき」の運動に対する思いが変化した理由を考えるを通して、自分のよさに気づき、それを伸ばし活かそうとする態度を育てる。  
 4 資料名 「柔道との出会い」  
 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導入	1 中学校で入ろうと思っているクラブを発表する。 ○ 中学校に入学して入ろうと思っているクラブはありますか。それは、どのクラブですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ない。</li> <li>・ ある。</li> <li>・ テニス部      ・ 陸上部</li> <li>・ サッカー部    ・ 吹奏楽部</li> </ul>	○ 入部希望なので、決めていない場合や複数の部に希望している場合も自由に発表させ、資料への興味付けを行う。
展開	2 資料「柔道との出会い」を読んで話し合う。 ○ 「まさき」は、どんな気持ちで、「この体格がなあ…」と言ったのでしょうか。 ○ 「運動に対する思いが変化したのを感じていました」とあるが、どのように変化したのでしょうか。 ◎ 「まさき」はなぜ、明るく大きな声で挨拶をするようになったのでしょうか。 3 自分達の生活を振り返って話し合う。 ○ 自分が、今頑張っていることはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体格のわりに、運動ができない自分が情けない。</li> <li>・ おばさんたちは何も知らないくせに、体格だけで判断しないでほしい。</li> <li>・ 自分にもできることがありそうだ。この体格や声を生かせそうだ。</li> <li>・ もしかしたら、ぼくができるスポーツがあるかもしれない。</li> <li>・ 運動は、体格や運動神経だけでなく、礼儀も必要なんだ。だから、声をしっかり出せるぼくは、運動することで、心も体も鍛えられるかもしれない。</li> <li>・ クラブの監督や先輩に声のこをほめられたから。</li> <li>・ 自分のよさを生かすものを見付けることができたから。</li> <li>・ 自分に自信がもてるようになったから。</li> <li>・ 野球を続けている。練習はきついが、やればやるほど上手くなっている。</li> <li>・ 漫画を書くことが好きで、イラストや漫画を書いて定期的に応募している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の体格をコンプレックスにしか感じていない「まさき」の気持ちに共感させる。</li> <li>○ ワークシートに、記入させることで、自分の考えを整理させ活発に話し合わせる。</li> <li>○ 頑張ること・努力をすることで自分が充実感をもてることを押さえる。</li> </ul>
終末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 強く、楽しく生きていくためにも、自分の長所を見付け伸ばして行きたい。</li> </ul>	○ 自分の長所を見付けることで、がんばれたし日々が充実し始めた経験を話す。

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

思春期に差しかかるこの時期、周りの視線を必要以上に気にしたり、自分のあらゆるところを気にしたりして、自分に自信がもてないことがある。

また、友達といっしょにいて、同じようなものを持ち、同じような話題を話すことで安心し、自分の意志ではなく他人につられて行動してしまうこともありがちである。

そこで、このような時期に、自分にしっかりと向き合わせ、自分のよさだけではなく、変えたいと思っているところ・短所等にも気付かせ、自分の意識の変革や努力をしながら、それを伸ばしていこうとする気持ちをもたせることが必要であると考え、本主題を設定した。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア 柔道についての基礎知識

柔道について目に触れる機会の少ない児童実態がある場合は、導入で柔道の大会風景を視聴し、礼を重んじることや柔道の技等を紹介することで、資料への興味付けを行うとよい。

#### イ 活用の時期

本資料は、中学に入ってから主人公の気持ちの変化を扱っているため、小学校卒業前の3学期くらいに扱うと効果的である。

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 資料の提示

小学校の時のことと中学生になってからのことを分割提示し、その変化に気付きやすくするとよい。

#### イ 振返りの工夫

自分の頑張っていることと言われても、急には思い浮かばないことも予想される。そこで、1か月前くらいに、このことについて事前に書かせておき、その振返りで利用したい。また、頑張っていることについて、今の自分はどのようなことを思っているのかを語らせ、そのよさを感じ取らせるようにしたい。

#### ウ 終末の工夫

教師の説話では、自分の体験でもよいし今までであった児童生徒の生き方を紹介するのもよい。自分と同じように自信もなく生きていた小学生や中学生の実際の話聞き、よさに気付きそれを伸ばそうと努力することで人はどれほど変化し、充実した日々を送るようになるかを身近に感じさせるようにしたい。

執筆者より

思春期にある多くの児童生徒が、同じような悩みを抱えながら生きていることに気付かせ、自分を見つめ直させることで自身のよさを発見し、よりよい学校生活を送ることができるようにしたい。

(音戸小学校 深見 敏美)